

No. 16

1989

12月1日発行

萩の郷

発 行 者
下 市 田 区

発行責任者
下 井 武 平

印 刷
下市田・キタバヤシ印刷



うれしいな

「おじちいちゃと一緒に」

十一月十三日(月)に、下市田区老人クラブ役員の方々と、三区高寿会の方々ととの交流会を行ないました。

何度も来て頂いているお年寄りの方々に、子ども達もすっかり慣れ「おじちいちゃん」「おばあちゃん」と、呼び合う姿も見られます。

この日は、はじめて来られたお年寄りの方々もおりましたので、ひとりずつ自己紹介をして頂き、そのあと、年長の子ども達(四十七名)と、グラウンドゴルフを行いました。

「やった事ないでわしゃ見とるもの。」

「足が痛いので座って見とる。」

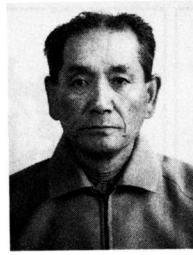
と、言っていたお年寄りの方々も、

「簡単だで一緒にやるか。」という子どもに、手をひっぱられて、子ども二人に、お年寄り一人の組になり試合開始。

子ども達に向けられる暖かいまなざし、手のぬくもり、やさしい口調は、きっと子ども達の心に残ったことでしょう。

下市田保育所 森 下

下市田区 新二役紹介



区長 下井武平

私こと去る十月末の区長任期満了に依る選挙の結果区民多数の御要望に依り三度区長の重職を御引受けする事になりました。もとより不肖の私ではありますが御引受けした上は誠心誠意



副区長 三島 勤

此の度の改選に依り、副区長の大任を御引受け致しました。

下市田区並びに区民の皆様のために努力する覚悟であります。今迄通り御支援御鞭撻の程御願い申し上げます。

退任のごあいさつ

松島 重人

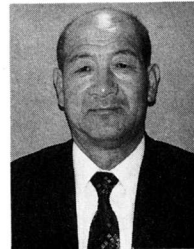
私事下市田副区長として四ヶ年の間下市田区の発展を念願して一応に務めさせて頂きました。区民の皆様御理解と御援助のおかげで大過なく過ごさせて頂き心より御礼申し上げます。

又四ヶ年の間代議員をはじめ各委員・公民館・氏子総代それぞれの方々の御厚情を心から御礼申し上げます。大勢の方々との出会い、交流は私の人生の思い出となり一生忘れられない事と思っています。

今後も変わらぬ御親交をお願いいたします。これからの下市田区が住みよい地区となり益々の発展を祈り退任の御挨拶と致します。

もとより其の器ではありませんが「愛区精神」をモットーに全力投球を致す所存であります。

区長を補佐すると共に代議員諸兄を始め区民の皆様と温かく美しい人間関係を重ねつつ、下市田区のよき発展の為に微力を尽し度いと思ひますので何卒宜しくお願い致します。



会計 富田隆仁

寒い季節を迎えました。皆様如何お暮らしてでしょうか。秋の取り入れも終わ

区の情勢について

区長 下井武平

先ず裁判について申し上げます。去る九月二十八日東京高裁に於て判決があり高森町(下市田区)が全面的勝訴となりました。然し相手側は十月二日最高裁へ上告し、今後は最高裁に於て争う事となりました。当然然な事ですが、今回も勝つ事を信じています。

土地改良については二区

皆様の御協力を御願い申し上げます。町全体の下水処理問題については近く町の研究委員会が発足される事となります。委員の方々には勿論区民の皆様も将来を考えて前向きな御検討を希望致します。

平成元年度 下市田区一般会計決算報告書(中間)

(自平成元年4月1日～至平成元年9月30日)

既収入金計 28,101,429円 既支出金計 10,813,487円 差引残高 17,287,942円

I 収入金の部

項 目	予算額 千円	既収入額 円	予算残額 円
1.区 費	12,240	6,941,800	5,298,200
2.繰 入 金	8,021	4,908,334	3,112,666
3.町 支 出 金	3,000	3,558,890	△ 558,890
4.財産収入	1,000	55,330	944,670
5.寄 付 金	2,000	0	2,000,000
6.消防義務金	1,500	1,610,000	△ 110,000
7.諸収入金	1,600	303,540	1,296,460
8.前期繰越金	1,000	10,723,535	△ 9,723,535
収入合計	30,361	28,101,429	2,259,571

II 支出金の部

項 目	予算額 千円	既支出額 円	予算残額 円
1.総 務 費	9,862	6,095,467	3,766,533
2.厚生 費	597	301,475	295,525
3.林 務 費	1,530	535,250	994,750
4.土 木 費	3,370	524,901	2,845,099
5.水 利 費	2,715	1,483,484	1,231,516
6.消 防 費	2,395	738,910	1,656,090
7.公 民 館 費	2,791	1,134,000	1,657,000
8.公民館建設基金	5,000	0	5,000,000
9.予 備 費	2,101	0	2,101,000
支出合計	30,361	10,813,487	19,547,513

教 養 部



木 村 隆 雄

下市田区民の皆様には日頃教養部の行事に大変御世話様になり厚くお礼申し上げます。

公民館各部長紹介

一年間の行事も早いもので終了しようとしています。が、不慣れな者で皆様方には大変御迷惑をかけたことが多かったのではないかと思います。幸いにも各部落から二名ずつ計十二名の良き部員の方々にめぐまれ、区長さん始め区の三役、公民館三役の方々の御指導と区民の皆様の御協力により萩の里祭り、カラオケ大会、文化祭と敬老会など主な行事が無事終了することが出来ました。部員として区民の皆様のコミュニティの場に応じ、又参加して良かったと思っていただけという行事内容に努力して参りたいと思っています。

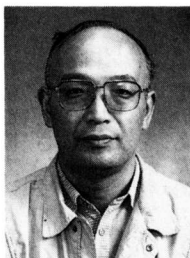
体 育 部



福 島 照 義

区民の皆様の御意見を御聞かせ願ひ、行事への御参加と御協力を宜敷くお願い申し上げます。

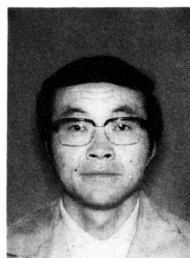
視 聴 覚 部



橋 都 明 彦

大勢の皆様に参加により本当に楽しかった、と言う声を聞き、今迄の大会に見られない人と人の和が生まれた感じが致しました。今後共区民の皆様の御意見を聞く中で、行事への参加と御協力をお願いし、体育部の行事を遂行して参りたいと思いますので宜敷くお願い致します。

図 書 部



林 豊

きが他部落でもできるような部として協力したいと思ひます。今、部ではビデオライブラリーの製作にはいりました。来年度には皆様に見ていただけるよう進めてまいります。

平成元年度 下市田公民館中間決算報告書

(自 平成元年4月1日～至 平成元年9月30日)

既収入額 1,166,389円 既支出額 1,148,758円 残 高 17,631円

(単位 円)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	予算額	既収入額	備 考	科 目	予算額	既支出額	備 考
1.繰越金	0	32,058	コミュニティ 下市田区より	1.総務費	1,236,000	354,801	
2.繰入金	(240,000) 2,791,000	(0) 1,134,000		2.教養部費	(240,000) 692,000	(0) 404,514	
3.雑収入	0	331		3.体育部費	583,000	212,583	
				4.視聴覚部費	173,000	113,860	
				5.図書部費	107,000	63,000	
合 計	(240,000) 2,791,000	(0) 1,166,389		合 計	(240,000) 2,791,000	(0) 1,148,758	

(上段はコミュニティ補助金)

A black and white portrait of Dr. Shiro Kikuchi, a middle-aged man with short, dark hair, wearing a dark suit, white shirt, and a dark tie. He is standing in front of a bookshelf filled with books.

私は、今年四月から一区の公民館部落主事を仰せつかりました者でございます。

を書いてみたいです。

す。

今回はコミュニケーションの事業としては有意義なものであると思った。

②和太鼓の披露について（福祉センター）

②和太鼓の披露について

初めての太鼓打ちを北沢さんが行ない、次に太鼓クラブの三人の方々から、腹に響くりズムにのった勇壮なる太鼓打ちを鑑賞するこ
とができた。

③ 芸能発表会

(福祉センター)

各部落からとクラブ（鈴

の会・こすもす・老人・あ
ざみ・しのぶ）カラオケ・
民謡・飛び入りと、盛り沢

山の内容で行なう事ができ

た。老若男女を問わず一堂

に会して 酒を酌み交わし乍ら、一つの事に熱中でき

（中学校体育館）
十時よりA・Bの二ヶ所
で行う。チーム数は十七で、
一チームの人数は八名（女
子二名を含む）トーナメン
ト方式でした。最初は綱引
てすばらしかったと思っ
た。一つ一つの行事が一区
の皆さんの協力により和気藹
々のうちに終了できた事を
感謝しながら筆を置かせて
いただきます。

ふれあいの輪を広げよう

日頃区民の皆様には公民館活動にご協力いただきありがとうございます。

平成元年一月より、三
力行会会則により副会長は
公民館主事を兼務すること
になっているため、二年間
つとめさせていただくこと
になりました。

もとよりその器でもなく
まして公民館活動について
知識、経験もなくこれは大
変だと思いつつ一年が過ぎ
ようとしております。

下市田区・下市田公民館
の各役員、委員、主事の皆
さんならびに地元三区の皆
さんのご協力により、大過
なくつとめさせていただい
ております。

さて、日本は経済大国に

はなりましたが、物の豊かさより心の豊かさが求められる今日ですが、自己中心的な考えが優先し、地域共同体意識が薄れてきているのではないのでしょうか。

この間、皆様方に多大なご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げると共に改めてわが身の非力をつくづくと反省して慙愧に耐えないところでず。

本館や分館より与えられた
各行事を消化するのがやつ

とで、いつて見れば、ヒヨコが親鳥からエサをもらつてやつとよちよち歩きを始めたというありさまで誠に
お恥ずかしい次第です。
とにもかくにも来年は祈

り返し点、公民館の恒例の行事については、もう、「何もわからないから」が通用しなくなるので頭の痛いところですよ。

A black and white portrait of a middle-aged man with dark, short hair. He is looking directly at the camera with a neutral expression. He is wearing a dark, patterned jacket over a light-colored collared shirt. The background is a plain, light color.

今年の一月より、六区担当の公民館主事という大役

今年の一月より、六区担当の公民館主事という大役をお引きうけしてから、まもなく一年を経過しようとしております。

ふり返って見ますと、公民館活動の第一線の仕事についてはまったく何もわからない私でしたが、地域の大勢の方々の温いご指導とご協力をいただいてどうかこうにかやってこられたこの一年、いまだに夢の上

うな心持ちです。

(元年3月1日～9月30日)

歲 出	科 目	預 算 額	既支出額	增 減
1	祭 典 費	322,000	201,659	△ 120,341
2	神符守札調整費	150,000	9,000	△ 141,000
3	給 與	748,000	409,000	△ 339,000
4	社 務 費	300,000	126,485	△ 173,515
5	管 理 費	330,000	252,213	△ 77,787
6	負擔金寄付金	200,000	99,718	△ 100,282
7	積 立 金	0	0	0
8	予 備 費	33,400	0	△ 33,400
9	芸能保存費	1,100,000	1,034,000	△ 66,000
	經常部合計	3,183,400	2,132,075	△ 1,051,325

私も公民館活動についてはおぼろげながら理解をしているつもりでしたが、今では年ごとに新しい事業がふえて、これからの公民館活動の推進が地域住民の日常生活の中でいかに密接、かつ、重要な課題であるかを考えさせられた。

この一年間のうちに『公民館研究集会』で他町村へ出向いて勉強する機会を得たが、いずれの町村でも公民館活動の推進に地道な活動を続けておられることをひしひしと痛感しました。

微力な私ですが、これからも公民館活動の発展の為に、よりいっそう頑張つてまいりますので、今後ともどうかよろしくお願い致します。

下市田工業団地シリーズ

⑤

地域農業の発展の為に

株式会社 トマツ本店

広大な田園の中の、この

すばらしい環境の下市田工業団地に私共の工場が進出
来「ヨイタネトマツ」の愛
出来ました事は、行政始め
関係各位と地域の皆様のお
かけと深く感謝申し上げます。

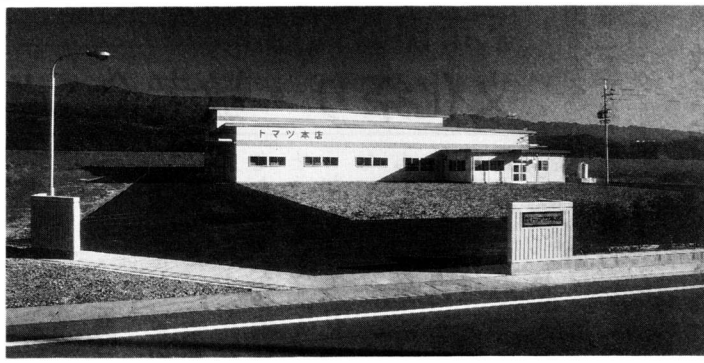
常に優良種苗の普及に努力
を致して参りました。

そして、戦後、農業用
ビニールの普及に始ま
り屋根のある農業（ハ
ウス園芸）を目ざして

栽培から収穫、販売ま
でに役に立つ資材・種
苗を普及して、園芸農
家の増収と技術の向上

を願ひ地域園芸の発展
に広く貢献しております。

昭和四十六年に本社
を現在の卸団地に移転
し、高度成長時代に対
応すべくその機能を高
めて参りましたが、今
日、農業情勢はバイオ
テクノロジーの発展、
農業後継者不足、自由
化の問題等、大きく変



ろうとしており、長野県、
そしてこの伊那谷において
もその限りではありません。
だからこそ我社ではこの変
りゆく農業情勢に対応すべ
くこの工業団地に工場を進
出した次第でございます。
現在、この工場は一分と
してパイプハウスとビニー
ルハウスの加工を行なっ
ており、出来る丈機械化し
て、御支援の程、よろしくお願
い申し上げます。

史跡めぐりシリーズ (16)

前亡後死三界万霊の碑について (1)

春日胤雄

この碑は出砂原の六地藏
の前、墓石・馬頭観音碑・
巳の碑等の雑然と並ぶ処に
東面して建てられている。
以前この辺は二区の地籍で
この碑も、明照寺（大正十
五年創建）の入口あたりに
あったのを、後に二十米ほ
ど北の現在地に移されたも
のである。
路傍にあり、大きな碑な
ので誰しも一応の関心はあ
ったことと思う。
何年か前、偶然この碑の
前で故勝又恒一先生と逢い、
立話のついでに、何がか
いであるのかということにな

ことを北
原金二さ
んに話し
た処、そ
れではも
っとしつ
かりした
解説を、
印刷など
にして残
すことが
大切では
ないかと
しきりに
奨められ、
考えてみ
ればこの
誤まりも私が源になっ
て、その責任のようなもの
もある訳かと思う一方、右
の経過の外に
一、昭和五十六年刊の「文
化の葉」に、この碑につ
いて何の記録もないこと。高
森町史「上巻後編に、簡単
にふれているが、建立の意
味や碑面の文字について、
現在よみとれるものと異な
った点があること。
二、未満水に関する資料は、
山吹地区には多いが、市田
には僅かの文書と言ひ伝え
の外はこの碑と大石くらい
しかないらしいこと。
三、今のうちに読んでおか
ないと、二百年以上経つ碑



面の風化が激しく、殊に前
かがみに立っているの
裏面は直接雨露をうけ、す
っかりあれて何か刻まれて
いたかどうかともわからない
状態。表面も年毎に読みに
くなくなっていくこと等々
から、もう一度読みなおし
て見る気になり、碑の前を
通りかかった人達（例えば
内昭一さんなど）の知恵も
おかりして一応のまとめを
してみたわけである。併し
この解説は素人の仕事であ
り、この方面に詳しい人に
調べていただくまでのつな
ぎのようなもので、関心あ
る方の批正を俟つものであ
る。（次号へつづく）

下市田公民館 文化祭り・敬老会 記

敬老会に招かれて

五区 北林 只人

敬老会にお招きいただいた「いよいよ俺も七十才か」碗拝見である。困ったなあとうれしいよーな、そうでもないような変な気持ちで敬老バスに乗り込む。これは区のご配意によるもの。感謝である。公民館へ到着するとまずお茶席へ。紅白の

敬老会に招待されて

二区 勝又 崑代

先ず最初に茶道の皆様が長年の修練を積まれたお点前をいたぐ。ふんわりと、軟かい口ざわりが何とも言えぬ美味しさだ。

次に二階の展示会場へ、もっと早く来ればよかったと悔まれる。生花、手芸品、陶芸、書画、見るもの悉く驚きと感銘の連続だった。

すらすらと鮮やかな水茎の跡、どれもこれも私には優劣はつかずみな達筆ぞろ

幕の張り巡らされた座敷は京都の聚楽第を思わせる。先着の上沼先生はもうお茶碗拝見である。困ったなあーと思って隣のおばあさんに「普通に飲みまいかな」とちょっと耳うちしてそばを頂戴する。次はお茶の番である。茶碗を二回ほど廻して六口で飲み干す。「いいお服でございました」と言った時はうれしかったです。

昨日館長さんを陣頭に教養部の皆さんが作られた会場は例年にも増して垢抜けしている。作品もみんなすばらしい。格調が高い。うしろから「こりゃまあ、プロも顔負けだわ」という声がある。のび返ってみると陶芸の作品を見ている腰の曲ったおばあさんが二人。このおばあさん、なかなかしゃれたことをいうなあ。これにも感心する。さて、いよいよ第三会場の講堂へ。いち早く久保田元治さんの顔が目に入る。「おい、七うだった。

趣味に寄せる夫々のひたむきな熱意と努力が伺われ、見て行く先々に驚異の目を見はる一日である。観衆の中からおはなが飛ぶのも無理からぬことと思ひ、難事を忘れて楽しいひとときを過ごさせていただけなのは全員の観喜いっぱいの気持ちだったと思う。

長寿の表彰を受ける方々には尚健かにと心に念じつゝ、自分は来年はどうだろうと、こんなことが頭に浮ぶようになった。歳月の流れを感じないわけにはいかなかった。長く生き抜いた年代にとつて平和の有難さを痛感し、

十才は俺たちだけかな。とことばを交わしながら二人でにやり。式典が終ると区からの心尽しの酒と肴がわたる。そして演芸がはじまる。いつしか酔いがまわって会場は賑わい、なごやかになる。このころから壇上には花銭がとび、会場は一体となつて大はしゃぎ。「伊奈川さん、飛び入りで何かやってくれんかな、俺三百円花をうつで」やがて指名をもらって伊奈川さんは壇上へあがる。得意の俳句の朗詠である。

誰かやってよ

―教養部員―

嫌な予感がして部長からの電話を受けた。『司会をたのむ』……見学先の会社からの指定日で、昨日、文化祭りの前日と云うのに、その準備に多忙を極めるのを知り乍ら、自分達の主催するクラブ総会旅行で、八十人程の御婦人を引率して（引率されたのかも!!）まわった。一日後髪を引かれる思いをしたことで、何かその罪が半減した様な気持ちになるのは、不思議なもんだ。

一夜明けて、きょうは汚名挽回とばかり張切るつもりが、約束が違うじゃないの。準備のため、幾日も忙殺されて来ている。部長命とは云え、こればかりは避けて通らなかつた。どうプロデュースするか、あれこれ考えると思考錯誤が火事になったよう。

いに見えてしまふ。画の前茅。に付てばその素晴しさに釘付けにされてしまうようだ。何れの一品たりとも一朝一夕にして出来るものでない事がわかるだけに、日頃のたゆまぬ勉強がひしひしとわかり、言わずもがな、正しく文化の町にふさわしく思われた。

午後の部は盛りだくさんな余興で次々と華麗な、舞踊、歌謡曲と皆日頃の練習の賜と思えば、つい見物にも熱が入り、誰もが楽しそ

うだった。趣味に寄せる夫々のひたむきな熱意と努力が伺われ、見て行く先々に驚異の目を見はる一日である。観衆の中からおはなが飛ぶのも無理からぬことと思ひ、難事を忘れて楽しいひとときを過ごさせていただけなのは全員の観喜いっぱいの気持ちだったと思う。

長寿の表彰を受ける方々には尚健かにと心に念じつゝ、自分は来年はどうだろうと、こんなことが頭に浮ぶようになった。歳月の流れを感じないわけにはいかなかった。長く生き抜いた年代にとつて平和の有難さを痛感し、

きょう出演する自分のグループの手合わせを済ませると、兎に角公民館へ入った。出演グループのプロファイルが提出されている筈だ、それに目を通して話をまとめようと思ったら、なんと館長自らが徹夜までして、これを編集、印刷までして下さつて、小冊子になっていた。「こりゃーちょっと甘えが過ぎるぞ」と、揮の紐を引き締めたら、「揮の話」から司会が始まつてしまった。

ガクガクする足を鎮めるには、こんな話からが丁度いいや。一緒に司会して下さる女性部員のお二人に助けられて、プログラム一番、初亀の自分の出演を乗り切った。幕合の話をネタが切れると、館長が作って下さった小冊子から拾い、又、舞台裏に求めて走り回った。いったいこの司会は、

区報「萩の郷」へのアンケートのまとめ

編集委員会

回収率は四五%

回答者の中心は 女性三十代

回答、回収には多くの方のご協力をいただき、回収数四九〇(回収率四五%)のうち意見・希望などを細かく記入してあったものが一四二で三四八は現状でよい、よい、特別にないとい

二、内容について

区のことや情勢がよくわかるが、予算、会計報告、行事予定など詳しく具体的に知らせしてほしい。公民館のクラブや各種団体の紹介のほか、各部落の様子、行事など載せてほしい。史蹟めぐりに郷土誌的な下市田の今昔、伝説なども加えて続けてほしい。地図を入れて案内があるとよい。意見・提言などに若い人の声が載るように広い範囲から原稿を集めること。小学生中学生の作文もできたら多くすること。身近な内容が多いので興味をもち親しんで読むことができる。写真や図形は必要に応じて大きくして説明を詳しくしてほしい。

一、体裁について

表紙の写真に区内の自然や名所史蹟などを紹介を兼ね

三、編集全般について

読者層をどう考えるか、

中高年か若者か、区報だから広く区民の意見を多くとりあげるとよい。

新しく住民となった者には区報によって区のようなものが判ってよいので区政のほか、いろいろなことを判り易く紹介してほしい。

区出身者で遠くで活躍している人たちのようすや声などを記事にしたらどうか。

四、その他

役員・委員などの挨拶のような記事は短く簡単にし、情勢、事業、行事計画などを詳しく載せること。発行回数、ページ数を多くするか、時には特集の発行はできないか。

下市田駅南の地下歩道へ子どもの壁画が実現する

― 地下歩道壁画実行委員会 ―

「子どもの四季」の壁画を描くことになりました。地下歩道の壁へ子どもの絵を描くことについて三区の関係者で話し合った結果、役員が町当局と交渉し次のように進めることになりました。

一、参加する子どもは地下歩道附近(二区共南を含む)の小中学生を中心に絵に興味をもち意欲のある子ども

実は正直なところ今までよく読まなかったが、アンケートがきたので全部読んだ、との記入もありました。また、区報だからお知らせや報告に重点を置き、文芸的なものや意見などはいらないという意見もありましたが、大多数が前に述べたように今のよう内容でもっと充実した区報を望んでいることが判りました。

編集委員会では、今回のアンケートの意見や希望をもとに研究協議して皆様に楽しく読んでいただける区報の編集に努力いたします。アンケートの結果の報告をいたし、ご協力にお礼を申し上げます。

二、子どもの指導には下市田美術クラブ会員、育成会支部、小中のPTA支部、力行会などの役員のほか有志が当る。

三、壁画は中心テーマを定め全体計画(壁画の使い方、原画制作、作業など)を立てて作業をする。

四、使用するペンキについては専門家の指導を受ける。

各クラブ一年間の活動成果発表のためなのか、併催されている敬老会のためなのか、喋っている話の中に自問したが、成果だとして下さる人が居て評価できるんだから、後者のためが良からうと結論づけて納得。兎に角、お年寄りに厭われないような司会を心掛けていたら、予定より早い進行で少し引伸ばすようにとの連絡があり、話のネタ集めが忙しくなった。こんな時、会場のお年寄りが飛

十月十日に第一回の実行委員会を開き、集った子どもたちと話し合いを行ない「子どもの四季」をテーマとし、子どもの遊び、地域や家庭の行事、親しみのある動物や植物が出る絵巻き物語風の絵にすることになりました。日曜日に十数人の子どもが集まり今までに三百四十枚の原画ができたので、これを基にして構成し春の一部分だけでも近いうちに壁へ描く予定です。寒くなるので完成は来年の六月頃になる予定です。熱心に原画制作にとりくむ子どもたちと指導に奉仕する方々



のふれあいを通しての体験は壁画と共に長く思い出として残るでしょう。原画制作は始まったばかりです。多くの子どもさんの参加とおとなの方の奉仕を待っております。毎日曜日後一時半から荒神前会会所で原画を描いています。

町の文化財 旧下市田小学校

福島 光三郎

旧下市田学校の建物は、明治二十二年に再建されたもので、南向き正面が十間半、側面が七間二分の二階建てで、玄関は木曾亀が造作をし鉋やのみの跡が残る名工の手腕をしのぶことが出来ます。

本建ては下市田の寺沢佐藤治・上沼三蔵らの大工の手により完成しました。

明治四十一年、校舎を北方へ移転し大改造をすることとなり、厚壁造りの重量を軽くするため当時の厚壁造りを廃し、教室の窓を広くとり、近代的な明るい校舎に面目を一新しました。その姿が現在の校舎です。

明治二十八年六月、小川昌成校長が着任するや否や部下の先生達をひきいて、校風の刷新充実に努められ、生徒の訓育指導のみに限らず、卒業生の補習授業、青年団の教化、地域の社会教育にもたずさわりました。

小川校長の業績のうち、特に注目したいのは、校長の薫陶を受け学校の教師となった人物の多いことです。十七ヶ年間に実に五十二名（女性十名）に達しております。

この様な事例は、郡下にも県内にもありません。

小川昌成校長は、大正四年三月職を辞し松本の家族の許に帰られました。下市田在任中全くの自炊生活でした。

この二階建の校舎は萩山神社よりにあったが明治44年に現地へ移転改造した。その時の記念写真です。



昭和八年の学校統一に依り六教室一棟は廃棄され、体操場のみ唐沢原の新校地へ移築されました。残された本校舎は

下市田の教育のシンボルとして保存されて居りましたが、下伊那農学校の北部地区の分校となり、昭和二十三年より昭和十五年迄の三十一年間、実業教育の殿堂として青年七百名を社会に送り出しました。

学校の卒業生の学窓に對する思い出、愛校心も才月をへるごとに弱まり、老令化し、文化財に対する意見は持ち乍ら人々は老いつつある現況です。

小川昌成その他の先生方の声咳の反響した教室、名工坂田亀吉の手になった堂々とした玄関のある下市田学校が過日町の文化財の指定を受け、保存会も結成されました。

関係者は、その建物の維持管理に努めて参りましたが、未だ活用の将来像も固まらず会の使命も努力の限界に在るように感じられ、先の見通しもたない現在としては、町へ一切を委譲する以外に方途なしと云う声に押されて居ります。

今後の保存、活用方途につき町内の有識者二十名にアンケートを求めた結果は、まちまちでした。

一、自然環境に恵まれた現地として老人憩いの家を作る――校舎を含め。

二、他へ移築するには予算約一億を要する。

三、美術館として活用。

保存中問題となった玄関上部の雨漏りは会の費用百三十万円で修理済みです。

町に望むこととして、新たに保存会を改組し、少なくとも五年を限って保存と活用に関する基本計画を策定する。

荒神さまのご神体

荒神さま奉賛会

荒神さまのご神体は？

萩山神社に移されて「カラ」になっているのでは？

こんな素朴な疑問が区民の一部にあります。現在荒神さまの本殿を囲む鞘堂の屋根がいたんで大変危険な状態になっており、建替えを迫られております。

この期に改めて区民の皆さまに荒神さまの由来と、今の本殿に祭られた経過をお知らせしたいと思います。

。凡そ六五〇年前、安養寺の鎮守様、寺の守護神として荒神堂がまつられた。天正十年（一五八二年）の火災にも荒神堂は残り今

この頃決定した町の十ヶ年振興計画に洩れている。これらのために、歴史的に関係の深い、下市田の人々として、

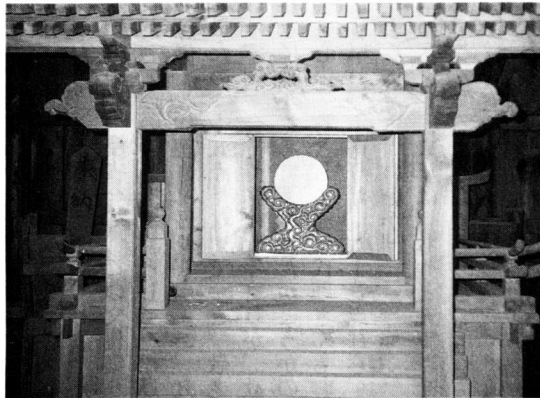
「どうしたらいいか」衆智を集め、みんなの満足する様な活用の施設の場としたいものであります。

※明治二十年の再建は十九年の火災のため。小川先生は文才にも優れ実兄浅井冽の『信濃の国』を補作して居ります。

の祠は元禄十六年（一七〇二年）再建。

。春祭は荒神さまのお祭りといわれ郷土芸能の獅子舞、囃屋台は昭和二十六年まで、宵祭↓寺↓大門石段↓荒神本祭↓荒神↓裏参道↓寺のコーラスが慣例であった。

。用地は明治初年迄寺境内地、以後は神社庁（萩山神社）の所有となり現在に至る。



。明治四十年内務省令で郷社合祀となり、その是非で区内がもめたが、四十五年合祀が決まり大正二年以上の宮（萩山神社）に遷された。

。荒神社は下の宮へ移すべきだとの声が高まり大正十三年区内組長会で協議、万場一致で分霊を下の宮へ奉祀することが決った。大正十四年すさのおの命と三宝荒神の二神体を奉祀し今日に至っている。

以上が荒神さまの経歴の概要で、下市田の里に残る由緒ある貴重な歴史的存在です。今後共大切に守ってきたいものです。

随想

故郷の香り

北原 慶子 (二区)

萩の郷の原稿を、と依頼された時、え「萩の郷」それどんなことですか「とお聞きする位未だ充分に様子をつかめないでいる私です。

故郷で暮らしたい、と云う想いを強くしたのは、主人が定年を迎える少し前位からでした。定年後も続いて働ける職場でしたので、その時期はもう少し先と考え、実感として未だ受け止めず、期待の中にも複雑な気持ちで過ごしておりました。片時も忘れる事のない甘ずっぱい香りのする故郷、「帰ろう」と気持ちが固まった時には、もう心は生まれ育ったこの土地に飛んでいました。

新年は故郷で、と今迄長い間仰えていたものが一辺に嘖き上がるかの様に、胸の高鳴るのを感じ乍ら車を走らせたのは、二年前の丁度今頃、十一回目の引越でした。

主人の仕事の関係で各地を転々と歩き、後を振り返っている間もない位、一瞬の内に都会の騒音にかき消され、大きな歯車の中に押しつぶされそうになった時、いつも飲み続けて来たもの、それは暖かくてほろ苦い味のする「故郷」と云う元気になる薬でした。

「帰って来てよかった」豊かな自然の恵みの中で、長い間忘れかけていたものが少しずつ戻って来たような、何もかも新鮮で心のごむ感動の毎日です。

時々帰省はしておりましたが三十五年ぶりの生活は戸惑う事が多く、周りの皆様に助けられ、教えられ、よき道案内をして戴き感謝の気持ち一杯です。



街並は大部変わりましたが、そと耳を傾けると静かに聞こえる天竜川の瀬音、居間から見える伊那山脈の美しい山並み、春の新緑、雨上がりのくっきりと見える稜線、和らかい光りに映える秋の紅葉、昔と変わらぬさわやかな風が、さまざま想いを乗せて今日も心地よく吹いています。

私は山に向って語りかけます。「故郷は遠きにありて思うもの」ではなく、又帰って来て住んで見るものです、と。

御礼の一言

市瀬 みずほ (四区)

思えば去年十一月二十五日。一面銀世界の中を二人の保育園児が出持った三十分後の事。電燈が消えた、安全器を調べに行つて煙を見付けた、風呂場の水を汲んで走った、無理だ、二九番、外へ飛び出した。

近所の人の助けを求めて、帰りがけたら赤い消火栓に眼がとまった、水、早く、早く、心の中で叫びながら、ホース一卷と筒先を抱いた。その時チャリンと金物の音、雪の中へ、そうだがこれがないと消火栓

押入れの端に厚紙に包まれた細長い包みがあった。何だろうと思ひ紐解いて見るとそれは父が少年時代の思い出にとって置いたと云う十数枚の短冊の束でした。何れも和歌・俳句とりどりでそんな中に「萩の里」とか「萩山の里」と云う言葉を歌われていたのが何かしら私の心に響くものがありました。それは私が十五、六の頃でした。

随筆

小川 忠一 (五区)

頃でした。後にその短冊の事を父に聞いたのですがそれは父の同年衆が松源寺の先々代の和尚様に師事して歌句会をやっていた当時のその一部で皆それぞれ歌人、俳人取りでペンネームを記してあってそれが誰の作品かは判りませんでした。

その様な風流好みの集いだけに中年頃より御射山様の管理、秋の祭例の穂屋作り等の伝統維持に長期間奉仕されたのです。御射山様のあの素朴な御祠は竹の柱ならぬ萩の囲いに菅の屋根で萩の郷ならではの伝承と思われまふ。

因に奉仕に尽力された方が出来まふ様、心して毎日を勤めさせて頂かなければ……と話し合っている毎日でございます。不幸な出来事ではありましたが、その中で多くの事を学ばせて頂きました。御礼を申し上げる機会もなく過ぎて居りましたが、丁度一年目、紙面をお与え下さいまして有難う御座居りました。

々は明治辛巳生まれの同年衆で明治辛巳会と云っていました。その方々の写真が萩山神社の社務所の壁に今も残っています。

「桂林に旅して」
瀧江下

広西壮族悠久流
奇峰林立映江上
裕々万国旅人心
吾瀧江下天下甲



小中学生の作文

お父さん達の応援団

小五 澤 愛美(一区)



十月三日は、町民運動会でした。私達の部落では本やくの人と前やくの人が応援団をするそうです。お父さんは前やくで、みんなで八人います。本やくの人も八人ですが応援団は十一人でした。十月十日ごろから、応援団の練習に行くと言って夜生活センターにいて、おそくまでお酒をのんで帰って来たとお母さんがいっていました。私とおにいちゃんと、妹で二十五日の日ウンジャラゲのおどりを教えるいき、おじさん達の

前で三回ぐらいおどって見せたら、「こりゃあむずかしくてだめだ」と言っていました。おじさん達は



ンバットマーチと、花笠音頭、なかなか私達がおしえてやったウンジャラゲのおどりを、おどってくれませんか。やっとウンジャラゲのおどりをやってくれました。みんな、にこにこしながら

プラネタリウムに行ったこと

小一 久保田 康幸(六区)

お父さんたちと、プラネタリウムに行きました。いいだのびじゅつかんの二かいにプラネタリウムはありました。三時になって、かかりの

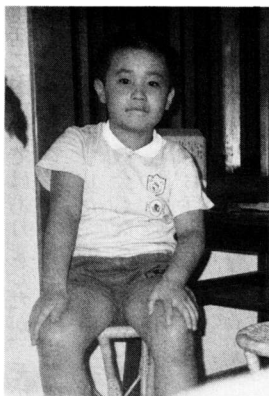
これからがスタートだ!!

中二 金田 理絵(三区)

今私が学校生活で一番楽しい事は、部活の吹奏楽です。楽器(フルート)を吹く事です。一年のときはそんなに楽しくなくてよくサボっていたけど、二年になって先輩という自覚がでてきたみたいで今は一度も休んだ事はありません。

文化祭もソロをやって、だんだん自分に自信がついてきました。私が二年になって新しく

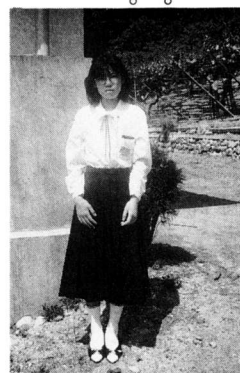
ようにはたくさん星が出てきました。どう体はがんばりませんか。ペガサスや、巨大なクジラや、色々な星がたくさん出てきました。



きょうりゅうや化石のはなしもありました。くびながりゅうや、ふたばすずきりゅうや、手ながザウルスや、今まで、ぼくのしらない化石は、どんなところにかくれているのかな。おこづかいを三百円ぐらいためて、また、プラネタリウムに行きたいな。

県大会が銀賞、長野県代表で東海大会までいきました。高森中ができてから県大会までしかいけなかったんですが、中村先生のおかげで、先輩たちの夢の東海大会に行けたんです。中村先生は偉大な人だと思います。

二年の後半になって先輩のあとをひきついてパート



編集後記

。区の三役が新しくなり、又公民館の部落主事・部長の紹介を致しました。区報アンケートの集計、今後とも意見を大切にしていまいます。新年号への投稿をお待ちしています。皆様よいお年をお迎え下さい。